

一 次の記事を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある解答については、句読点も一字とします。

扇おうち一本に、日本人はさまざまな意味をこめてきました。日本人にとっての扇は、実用的な送風機であるとともに、神を招くものであり、武器であり、また礼儀作法では相手に恭順の意をあらわすものである、と^①およそ四つの機能を果たすものなのです。

扇の由来は中国のうちにあります。中国から紙張りのうちわが輸入されると、日本ではこれをまねてビロ―樹という* シュロの一種の葉のうちわをつくりました。これはいまでも九州辺りの特産になっています。ビロ―樹の葉は横から握るとたたむことができます。そんなことがヒントになって、やがて木の板を薄く集めて、糸で綴とじ合わせて開いたり、閉じたりできる檜ひ扇という板扇が発明されたのです。

そして、糸で止めてあったのを紙を張って止めるようになり、やがて平安時代になると紙が主流になって、板が細くなり骨になってしまった――これが現在でも使われている紙扇です。

この頃の扇は五本骨でたたむと二センチぐらいの幅になる。これが珍しいということ^②。こんどは逆に中国への輸出品にもなり、たいへんな^③需要をよぶことになります。平安末期になると京都で扇をつくってどんどん輸出する、もちろん国内にも広まります。

この貿易は足利時代まで続きますが、やがて中国も供給過多になり、当然扇は売れなくなる。せっかく持っていたのにそれでは困るというわけで日本の扇商人は、おどかしてでも買わせようとする、するとこれがうまくいってしまう。そこで味をしめてこんどは手ぶらで行って^ア略奪して帰ってくるようになる。^④これが実は悪名高き倭寇わこうのはしりなのです。一方、中国人は、日本から買った扇をヨーロッパに輸出する。一種の伝達貿易です。扇は「セン」と読みますから、やがてそれが英語の「ファン」の語源になります。

ところで扇は開くことができる。この開くことが、こころが開くにも通じて、^イ縁起えんぎがいいということから、魂が振り動くに転化し、¹扇の形が手の平に似て、手で神を招くように扇で神を招くことができるというところから、神社の祭祀さいしに扇が非常に多く登場するようになります。²、紀州熊野の那智神社なちの火祭りは扇を象徴とするお祭りです。

また神の前でおこなう芸能を猿楽能さるがくといいますが、のちにこれが阿国歌舞伎おくにカキになります。阿国歌舞伎は扇を必ず持っています。そこには扇で神を招き寄せようという擬似宗教行為ぎじが秘められているのです。これが踊りの一派としてのちに発達してできたのが花柳流はなやなぎです。花柳流は扇の舞です。

また伊予万歳いよまんざいなどは扇を十二本も持ってパツと花が開いたような形を演出する。扇は神を招くことのできるありがたいものだということが、3 礼儀作法に取り入れられると、絶えず扇を持って歩くことが、礼にかなうことになります。正式の訪問の時は、扇を帯の間にはさんで持って行き、挨拶あいさつする時は、持つほうを右側にして前に置くということが決められています。そのことによって神聖さを演出するわけです。

また扇は、それ自体一種のかんたんな武器にもなります。他人から刀で攻撃された時、扇で受けとめるのです。竹は非常に強靱きやうじんな繊維ウですから、刀でも、なかなか切れない。護身ゴが扇一本でできるわけです。

ですから、護身用武器でもある扇を相手の前に置くことは相手に対する恭順の意をあらわすものであり、礼儀作法の根本にある無抵抗になつていっているのです。

贈り物にも扇はよく使われますが、扇を開いた状態を末広オといいます。末広とは終わりが無いことで、非常にめでたいことなのです。そこで人に物を贈る時、扇が贈られるようになったのですが、現在でも結納ゆいどうの時、末広という名前で扇が必ずついています。

扇はかんたんな道具です。

4、日本人はこのかんたんな道具に実に⑤さまざまな機能、あるいは観念を仮託かたくしてきました。平安の昔から今日まで、扇にかんするAは事欠きません。

*シユロ……ヤシ科の常緑高木。大きな掌状てのひらの葉をつける。

(樋口清之『日本の風俗の謎』による 設問の都合上、一部改変)

問一 — 線ア↘オの漢字の読みをひらがなで答えなさい。

問二 — 線①「およそ四つの機能を果たすもの」とありますが、筆者が示した「四つの機能」のほかに、扇にはどのような「機能」があると説明されていますか。最も適当なものを次のア↘エから選び、記号で答えなさい。

ア 神を招き寄せる道具。

イ 貿易の対象となる美術品。

ウ めでたさの象徴。

エ 相手を攻撃できる武器。

問三 — 線②「こんどは逆に中国への輸出品にもなり」とありますが、どのような出来事に対して「こんどは逆に」と述べているのですか。その出来事を示した一文を本文中から探し、最初の五字を書き抜いて答えなさい。

問四 — 線③「需要」の対義語を本文中から探し、書き抜いて答えなさい。

問五 — 線④「これが実は悪名高き倭寇のはしりなのです」とありますが、この場合の「はしり」とはどういう意味ですか。五字以内で答えなさい。

問六 1↘4に入る言葉として適当なものをそれぞれ次のア↘オから選び、記号で答えなさい。

ア やがて

イ たとえば

ウ いっそう

エ しかし

オ さらに

問七 次の一文を本文中に戻すとすると、どこが適当ですか。戻す部分の直前の七字を書き抜いて答えなさい。
扇をなかだちとする日本―中国―ヨーロッパの交流があったわけです。

問八 — 線⑤「さまざまな機能、あるいは観念」とありますが、その一つとして礼儀にかなう道具としての機能があげられます。どのような点が礼儀にかなうといえるのですか。本文中の言葉を使って、七十字以内で説明しなさい。

問九 [A]に入る言葉として最も適当なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア 伝統的なエピソード
- イ 技術史的なエピソード
- ウ 文化史的なエピソード
- エ 宗教的なエピソード

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。ただし、字数制限のある解答については、句読点も一字とします。

不器用な私には、図画の時間(今の美術の時間ですが、だいたい、習字の時間と同じように、教科書の絵のお手本にできるだけにせて描くことが多かったのです)は楽しくありませんでした。成績表でも、ほかの教科は * 甲をいただいていたが、図画だけは乙おつでした。乙のことを「あひる」と言っていました。図画のために、どうしても全甲というあこがれの成績が取れず、あひる一つはアカクゴしていました。

五年生の、秋のはじめのころでした。教科書に帯模様が採り上げられていて、先生がそれについてお話をしてくださいました。そして先生からうちわの形をいっばいにかいた画用紙が一枚渡されました。そのうちわに、植物を題材にした帯模様をかくように、と言われ、翌日までの宿題ということになりました。大きな画用紙をていねいに巻いて、はずまない、重い気持ちで家に帰りました。

帰ると、すぐ宿題にとりかかりました。そのころは、学校から帰ったら、何より先に宿題をするのは当たり前のことでした。

机に向かって画用紙をひろげ、まず、手本のとおり、斜めに二本の線を引きました。植物を題材に、といっても、何がいいか見当もつかない重い気持ちで、何となく頭を上げたとき、障子のまん中にはめこまれたガラスを通して、庭先のぶどう棚が目に入りました。ぶどうのふさが下がって、つるがのびていました。「ああ、これがいい」たちまち決まって少し心が明るくなりました。二本の線の間の斜めの帯のなかに、ぶどうのつる、葉っぱ、そしてたくさん丸いぶどうの実をかきました。イスイサイ絵の具を使って色をつけてくるようにとのことでしたので、さっそく絵の具をときました。ところが下絵をかくときに、葉っぱの形をうまくとったり、つるをからませようとしていたりしている間に、つい何度も消しゴムを使ったので、紙が少しけだつてしまい、せつかくのぶどうの実なども、絵の具がきれいにのりません。えんぴつではすらりとかけていたつもりのつるもにじんで、われながら下手だなあと悲しさがこみあげてきました。「涼しそうにかけよ」と言われた先生のことばが思い出されましたが、重ねてぬったところは、ことに色がまじって、とても涼しそうではありません。思わず涙がこぼれました。

そのころ、姉は肋膜炎で、大きな針を胸にさして水をぬきとったりして、絶対安静で隣の部屋にねていました。その姉が、私のおさえながらもらしてしまったすすり泣きを聞きつけ、細い細い声で、何か言いました。私は姉が水がほしいのか、苦しいのか、何か用事かと、思わず嗚咽をとめ、耳をすましました。すると、「持つといで」と言う声がします。私は思わず画用紙を持って病室に入りました。するとまた、「絵の具、持つといで」と細い声で言うのです。私は夢中で、絵の具を持っていきました。

姉は、水さえ吸吞でやつと飲むという状態でしたが、頭を上げて、絵の具を筆に含ませました。そして、ちよつ、ちよつ、ちよつ、とさわつてくれました。すると、見るまに、みどりの葉も、くつきりとうき上がつていき、細いつるの先などはうすみどり色に軽く巻いて、いきいきしてきました。

私は姉が手を入れてくれた①絵のできばえのみごときに、信じられない思いで、A見とれてしまいました。とても幸せで姉が「よく乾かしてから巻くのよ」と言ってくれた声も、何か夢のように聞きながら、部屋を出ました。もちろん、よく乾かして、紙をあてて、ていねいに丸くして学校へ持っていく用意をしましたが、その間じゅう、何かうきうきとうれしくて、ほかには何も考えませんでした。

翌日、大事に、捧げるように持って登校しました。友だちも、だいたい同じような巻いた形で大事そうに持ってきました。

先生が教室に見えました。

「帯模様、やってきたかな」

「はあい」友だちにまじつて、私も大きな声で答えました。

「順番に持ってきたさい」

いつもの順に、一人ずつ次々と教卓のところに持ってきました。先生は、一人一人「ようし」と言つて受け取つていらつしやいます。私の番が来ました。私はまったくことばどおりいそいそと出ていきました。教卓のみんなの絵の上に載せますと、先生は「ようし」と言つて受け取ってくださいました。私はわるいことをしているという考えもうかばず②「いそいそ」という気持ちそのままに、そのときもすぎてしまいました。

あくる日、教室の掲示板に、そのうちわにかかれた帯模様の絵の佳作が貼り出されました。見ますと、私のも貼り出されています。あちこちに「はまちゃんのように」という声がして、私は何か不思議な幸せを感じました。

一週間ほどして、その掲示板に、今度は習字の作品を貼るので「うちわの絵」ははずされました。そして、みんなに返されました。私も返してもらいました。見ますと、絵のウラに書いた名前の上に、桜の花の印が三つもついていました。そのころ、こういう作品の評価は、桜の花のマークでされていました。「あまりよくない」というのは桜の花びら一枚、「まあまあよい」は桜のつぼみ、「たいへんよい」は完全な花でした。花が三つなどという評価を私は見たことがありませんでした。何かぼうっとした心持ちでそれを見ていたら、友だちが寄つてきて、口々に祝福してくれて、私は夢のようにうれしくて、初めてのよい点に見入つてしまいました。

話はこれで終わりですが、のちに、私は教師になりました。あるとき、③ふとこのこどもの日のことを思い出して、深い感動におののいたのです。

絵を提出したあの時、ベテランの先生が、私の絵を一目見て、ことの真相にお気づきにならなかったはずはないと思います。一切を見通されていたと思います。

④常識としてまちがいに悪いくことです。提出の場で、どんなに烈しいことばで責められても、しかたないことで、本人も周囲も「ナットク」させられることです。しかし、それだけに、私は、たいへん悪いことをした子どもとして、消しがたいきずを負うことになります。⑤私の心の中では人をだまそうなどという気持ちは少しもなく流れたことです。今までこんなことはしなかった子だし、これからふたたび同じことをすることはないと信じられる子であり、だれに迷惑がかかるということもないことと判断されたこの場合、先生はだまっただまされてくださったのだと思います。貼り出した、花三つの破格のおほめのしるしまで添えたりして、私の小さな、一度の幸せを守ってくださいだったのだと思います。

（大村はま『私が歩いた道』による 設問の都合上、一部改変）

*甲……昔、小学校などの成績表は「甲・乙・丙・丁」で示した。

問一 — 線アゝオのカタカナを漢字に直して答えなさい。

問二 本文中の[A]に入る言葉を次のアゝエから一つ選び、記号で答えなさい。
ア しみじみと イ うつとりと ウ ほればれと エ じろじろと

問三 この文章は「私」の小学校時代のある出来事を思い出して、感じたことや考えたことが書かれています。小学校時代の出来事が書かれている部分を探し、最初と最後の七字を書き抜いて答えなさい。

問四 宿題の帯模様をかき始めるまでの「私」の気持ちは、どのようなものでしたか。そのときの気持ちとして適当でないものを次のアゝエから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 図画が苦手な「私」にとっては気が重かったが、よい作品を仕上げようとしていた。
イ 先生の指示通りに仕上げようとは思ったが、気が重く、宿題をしなくなかった。
ウ 植物を題材にしてかくように言われても、何を題材にしているのかわからず、困っていた。
エ 図画の宿題は、不器用な「私」にとっては苦手なことであり、気が重かった。

問五 宿題の帯模様を「私」はかきましたが、うまくいったのはどのような点ですか。最も適当なものを次のアゝエから選び、記号で答えなさい。

- ア たくさんのぶどうの実に、葉っぱやつるをうまくからませた下絵がかけたこと。
イ えんぴつの下絵の上に、思ったとおりの絵の具を涼しそうにぬることができたこと。
ウ ぶどう棚の中の一番よいふさを選んで、すっきりした下絵がかけたこと。
エ 色をぬることで葉や実がうき上がり、生き生きとした感じに仕上げることができたこと。

問六 — 線①「絵のできばえのみごとき」とありますが、絵はどのような状態になりましたか。それが説明されている一文を探し、最初の五字を書き抜いて答えなさい。

問七 — 線②「『いそいそ』という気持ち」とありますが、どのような気持ちですか。二十五字以内で説明しなさい。

問八 — 線③「ふと」がかかる部分を書き抜いて答えなさい。

問九 — 線④「常識としてまちがいなく悪いこと」とありますが、どういう点がまちがいなく悪いのですか。最も適当なものを次のアゝエから選び、記号で答えなさい。

- ア 「花が三つ」という作品の評価をうれしく思っていた点。
イ 宿題を自分の手だけで仕上げず、姉に手を入れてもらった点。
ウ 宿題の仕上げを手伝ってもらった姉が、病気で絶対安静だった点。
エ 友だちの「じょうず」というほめことばを否定しなかった点。

問十 — 線⑤「私の心の中では人をだまそうなどという気持ちは少しもなく」とありますが、そのことが表れている「私」の行動が述べられている文を二つ探し、それぞれ最初の五字を書き抜いて答えなさい。

問十一 のちにこの小学校時代の出来事を思い出したとき、「私」はどのようなことに気づいて「深い感動」を感じたのですか。次のア～カから適当なものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 常識としてまちがいなく悪いことでも、先生はいつもみんなの前ではしからず、子どもの心をきずつけずにおかれたこと。

イ 先生はだれに対しても、常識としてのよい悪いの判断をもとに、子どもたちの指導にあたっておられたこと。

ウ 先生が常識のものさしだけで子どもをしかるのではなく、その子どものことをよく見られて対応されたこと。

エ 先生が「私」の小さな一度の幸せを、花三つの破格のおほめのしるしまで添えて、守ってくれたこと。

オ 今回の「私」のよくない点を、先生がみんなの前ではしからず、あとでそつと注意してくれたこと。

カ 先生が「私」のあやまちを、花三つの破格のおほめのしるしを添えることで、気づかせてくれたこと。